

生物多様性情報に関する優先順位を討議

情報技術やソーシャル・ネットワーク・サービスを活用することにより、地球上の生物の働きについて更に理解を深めることを目的とした国際会議が開かれ、主要な領域について合意が行われました。

地球規模生物多様性インフォーマティックス会議

(GBIC)には、世界中から約100名の専門家が参加して、7月2～4日デンマークのコペンハーゲンにおいて開催されました。この会議では、投資する財的資源を増加するとともに連携を深めることによって、革新的な方法により生物資源の監視・管理を行いうる領域が明らかにされました。

この会議の目指すところは、世界規模で協力して生物多様性の観察を行うと共に、研究者や協力機関の結びつきを強化し、生物多様性や生態系における短期的変化や長期的傾向を特定し、対応を行うことです。

この会議の成果として、地球規模生物多様性情報概況

(GBIO)が発表される予定です。この研究は、次の5～10年間における優先課題を定めて、行政機関が配分する研究資金に方向付けを行うとともに、各国が生物多様性を保存し、持続可能な方法で活用するための方策に対する根拠を拡大することを目標としています。この報告書の草案は、GBIFネットワークや生物多様性インフォーマティックス・コミュニティをとおして9月初旬には配布され、意見公募が行われます。

GBICの要約版報告書の他、生物多様性条約(CBD)の事務局長 Braulio Dias 氏による講演や解説等主要な文書は、[こちら](#)から入手可能です。

GBICは、GBIFとコペンハーゲン大学の主催により開催され、協賛として[Lifewatch \(CReATIVE-B\)](#) プロジェクト、[エンサイクロペディア・オブ・ライフ \(EOL\)](#)、生命の[バーコード・コンソーシアム \(CBOL\)](#) や [ロンドン自然史博物館](#)が参加しました。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

科学と政策 2

発表データ 2

GBIF 動物学名検証のための新しい参照ガイドライン

OpenUp! プロジェクトの登録件数目標半ば達成

新規データ 2

GBIFコミュニティの活動 4

地域ノード会議

2012年GBIF 資金援助メンタリング・プロジェクト

主要文書の翻訳

GBIFネットワーク外の活動 6

南アフリカ市民参加型科学ポータルサイトの立ち上げ

Canadensys 検索ソフト公開

アイルランドほ乳類地図の作成に一般市民の参画呼びかけ

ドイツで開催の市民向け科学イベントにGBIF登場

インフォーマティックス 6

種の記載の標準化タスク・グループ

GBIFにより公表したデータセット解析用の新規ツール

BioCASE3.2 によりダーウィン・コア・アーカイブ形式はワン・クリックで

公募プロジェクト 7

i4Life の新規パイロット・プロジェクトーカタログ・オブ・ライフのコンテンツ作成

今後のイベント予定 7

第3回ヨーロッパ保全生物学会議 (ECCB2012)

IUCN 世界会議 2012

第14回BIOECON 年次総会

第19回GBIF 理事会 (GB19)

生物多様性テクノロジーに関するシンポジウム

科学と政策

GBIF を通じてアクセスしたデータを活用した科学論文は、6~7月に更に30篇が追加され、2012年における数は119篇となりました。研究内容には、分布データに基づいて種の相対的存在量を予測したもの、外来種が新しい環境で生息可能となる要因について論じたものや陸上生物と海洋生物とで気候変動に対する反応の差異について検討したものなどがあります。

論文の詳細については、GBIF Science Supplement のページ (<http://www.gbif.org/communications/resources/newsletters/>) からご覧いただくことができます。

公表データ

GBIF動物学名検証のための新しい参照ガイドライン

GBIF が公表した新しい[ガイドライン](#)では、動物学名が関係する仕事に携わる人向けに詳細なデジタル環境の指針が示されています。

『動物学名デジタル情報の取り込みと管理に関するガイドライン』と題するこの刊行物は、動物種属名の綴りや形式を統一することによって、同じ種に関するデータをリンクする際の経費や時間の無駄を省くことを目的としています。本マニュアルは、国際動物命名規約 (ICZN) に準拠し、ドイツのゲッティンゲン大学が2004年に開始した、過去の動物学文献をデジタル化する[AnimalBase](#)プロジェクトにより培われてきた経験に基づいており、分類名に関する問題について ICZN が既に発表している文書を補完するものとなっています。

OpenUp! プロジェクトの登録件数目標半ば達成

EU が資金提供している[OpenUp!](#)プロジェクトにより、ヨーロッパの主な自然史コレクションから50万点を超える写真、ビデオ、録音ファイル、絵図その他のマルチメディア資料がデジタル図書館・博物館である[Europeana](#) から自由にアクセス可能となりました。

ベルリン自由大学の主導により、このプロジェクトは、欧州12ヶ国にある23の科学研究施設からなるコンソーシアムとして運営されており、コペンハーゲンにあるGBIF事務局も参画しています。



Europeanaにより公表されている自然史データの一例。ベルリン・ダーレム植物園・植物博物館所蔵Willingコレクションのヤグルマギク (*Centaurea cyanus* L.) 標本。

目的は、ヨーロッパにある自然史博物館や植物園が管理している文化的財産を広く開放することであり、Europeana に対して2014年までに110万点以上のアイテムを提供する計画となっています。Europeana では現在、33ヶ国2200施設に保管されている2千3百万点を超える書籍、絵画、フィルム、博物館展示物や記録文書を公開しています。

新規データ

GBIF データインデクスの最終改定以降7月末時点で、[データポータルサイト](#)により3億2千9百万件の地理座標情報アクセスを始めとして、3億7千7百万件超の分布データアクセスがありました。419のデータ公表機関から1万を超える生物多様性データセットが登録されています。6~7月に新たにGBIFネットワークに追加されるデータには以下のものがあります。



ガーナ

[ガーナ生物多様性情報機構 \(GhaBIF\)](#) では、オランダの GBIF ノードである [NLBIF](#) のメンタリング・プロジェクトの後最初のデータセットを公表しました。このデータセットには、首都アクラにあるガーナ大学植物標本園が保存する一万超の植物種に関する 8 万 5 千件のデータが含まれています。この植物標本園は、西アフリカ最大規模を誇り、同地域にある他国の標本も保存されています。当データは NLBIF のインテグレートッド・パブリッシング・ツールキット (IPT) を用いて公開されています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14195>)。

デンマーク

ペンソフト・パブリッシャー社発行の無料オンライン・ジャーナル ZooKeys は、5 月出版の分類法研究論文に際して調査を行ったイワガネグモ約 200 種の分布データを公表しました。



チェコ共和国で見つかったオスの ladybird spider (*Eresus kollari*)。写真提供：Pavel Krasensky氏。

『[velvet spiders—イワガネグモ \(クモ綱クモ目\) の分布地図](#)』と題するこの論文では、主にアフリカ、ヨーロッパ、アジアに生息するイワガネグモ科のクモ約 100 種類に関して包括的な系統分析が行われており、ladybird spider (写真) などを美しいカラー写真で見ることができます。オランダにあるナチュラリス生物多様性センターの Jeremy Miller 氏は、アメリカ、デンマーク、チェコ共和国の研究者と共同してこの研究を実施し、電子顕微鏡や DNA 配列解析を用いて系統発生や種間の親近性を分析しました。標本とその採集場所に関する記録は、IPT ソフトウェアを用いたペンソフト・パブリッシャー社の編集により GBIF に提供されており、デンマークがそのホスト国となっています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14165>)。

イギリス

[ケンブリッジ大学動物学博物館](#) では、所蔵物の中から歴史的・国際的価値が高いものについて、6 万 5 千種を超える記録を公表しています。当博物館の所蔵物は、大部分が 19 世紀に行われた収集探索によるものであり、その結果世界のいたるところから

収集した動物について初めて考証が行われるきっかけとなりました。当博物館の所蔵物は、現在の動物種分布状況を評価する上で欠くことができない基本データとなっています。

当コレクションには、特に歴史的価値の高い動物種が含まれており、その中には、ドードーやオオウミガラスの標本、絶滅種タスマニアオオカミの毛皮の他、ダーウィンが採取した標本があります。ダーウィン標本には、ビーグル号航海の際にダーウィンが実際に採取したものや、ケンブリッジ大学で学んでいた時代のもも含まれています。当コレクションに最近加わったものとしては、英仏海峡トンネルを掘削した際に採取された原始地上脊椎動物や軟体動物の化石があります。これらの資料は、過去 1 万年の間にヨーロッパに起こった気候変動を示すものです。その他、コレクションには、セイシェルから出土した広範囲の無脊椎動物群があります (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14193>)。

ドイツ

GBIF のポータルサイトやウェブサービスを利用する人に対して、歴史的に重要なデータベースである [シュトゥットガルト州立自然史博物館](#) の爬虫類コレクションにもアクセスが可能となりました。この博物館は、その所蔵品の中から 7 千を超えるデータを公開しており、所蔵品には 200 年以上も昔に遡るものや、Carl Ferdinand von Ludwig 男爵、Paul Wilhelm von Württemberg 公爵、F. von Müller 男爵や August Kappler 等 19 世紀を代表する収集家が集めた標本も含まれています。当コレクションには、世界中から採取した約 2 万種のは虫類や両生類があり、カメ、ワニや新熱帯区に生息する両生類は、当コレクションの中でも重要な位置を占めています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14192>)。

[ゼンケンベルグ自然博物館](#) は、ミミズ、線虫、ダニ、ムカデ等土壌生物のデータベースである Edaphobase から、6 万 8 千件を超えるデータを公表しています。データは 50 年を超える研究の成果です (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14157>)。

スイス

国際共同研究計画 [DIVERSITAS](#) 傘下の活動の一つである [山岳生物多様性評価プロジェクト](#) では、所有するヒマラヤ山脈植物データベースから 16 万 3 千件のデータを公表しています。このデータベースは、中央アジアのチベット高原に関連する植物種を対象としたものであり、データは、13 ヶ国で 50 年にわたり収集しました。世界中の 2200 名を超える収集家の努力によって、ほぼ全データが地理情報を含むこのデータベースが出来上がりました (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14158>)。

[山岳侵入調査ネットワーク \(MIREN\)](#) では、オーストラリア、チリ、スペインおよびアメリカの山岳地域に繁殖する非在来植物種について、3千7百を超える観察データを発表しています。対象植物には、グンバイナズナ、オーチャードグラス、キクニガナ、棘苜（とげしちや）などがあります

(<http://data.gbif.org/datasets/resource/14164>)。

[スイス動物地図学センター \(CSCF\)](#) は、1835年よりチョウ、トンボの他、バッタ、コオロギ、イナゴ等の直翅類について100万件を超える記録を公表しています

(<http://data.gbif.org/datasets/resource/14168>,
<http://data.gbif.org/datasets/resource/14169>,
<http://data.gbif.org/datasets/resource/14170>)。

連邦政府の事業である[スイス生物多様性モニタリング](#)計画では、この地域で繁殖する一般的な鳥に関して2万6千7百件のデータを公表しています。データには、ウソ、シラコバト、ヤドリギツグミやアオガラなどが含まれています

(<http://data.gbif.org/datasets/resource/14166>)。

フランス

[ジョルジュ・サンドと黒い谷の博物館 \(Musée George Sand et de la Vallée Noire\)](#) は、所蔵する鳥類剥製コレクションの中から1300種類2500件のデータを公表しています。このコレクションは、18世紀北フランスの自然主義者 Jean François Emmanuel Baillon が始めたものです。このコレクションには、1800年以前に存在した60種以上の鳥類や、既に絶滅した鳥類種・亜種の標本9体が含まれています

(<http://data.gbif.org/datasets/resource/14302>)。

オランダ

[マーストリヒト自然史博物館](#) では、館内の植物標本園で管理している植物に関する22,240件のデータを公表しています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14173>)。

ベルギー

自然森林研究所 ([INBO](#)) は、ベルギーに生息するテントウムシ科のデータベースから、7万2千件を超えるテントウムシのデータを公表しています。約15%は、博物館コレクションや文献データに基づくものであり、残りは、500名を超えるボランティアから報告された観察記録です。データは、ベルギーの約85%の地域をカバーしています

(<http://data.gbif.org/datasets/resource/14177>)。

カナダ

[ブリティッシュコロンビア大学植物園](#) では、7万件の藻に関するデータを公表しています。その中には、1950年代から1980年代にかけて中央カリフォルニアからアラスカやアリューシャン諸島にかけての太平洋沿岸で収集した5千種類の藻が含まれています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14174>)。

[モンリオール植物園](#) は、そのコレクションの中から生存する植物種およそ1万6千種について2万4千件のデータを公表しています。当植物園は、世界でも最大級の一つに数えられています

(<http://data.gbif.org/datasets/resource/14163>)。

両データベースは、Canadensysデータリポジトリにより公開されています (6ページの「GBIFネットワーク外の活動」セクション参照)。

アメリカ

[アメリカ地質調査所 \(USGS\)](#) では、非在来水生動物データベースから10万件を超えるデータが公開されています。アメリカ全土から集めたデータを集約して、外来動物種の中央レポジトリを立ち上げ、生物学者、政府機関や一般市民が利用できるようになっています。データベースには、コイやカワホトトギスガイなど北米には元々存在しなかった生物の他、ブルーギルやオオグチバスといったアメリカ大陸の本来の水域から他の水域に運ばれて来た魚類などが含まれています

(<http://data.gbif.org/datasets/resource/14300>)。

GBIFコミュニティーの活動

地域ノード会議

アジア、アフリカ、北米のGBIFノードは、6~7月に会合を開き、地域レベルの協力体制を推進するとともに、地域計画に関して進展が見られました。**アジアノード第4回会合**は、6月28~30日にTaiBIF (台湾GBIF) 主催により台北にて開催されました。5ヶ国(インド、日本、韓国、パキスタン、フィリピン)のノード代表の他、3協力団体(ACB、台湾、ICIMOD)から計11名が参加しました。以下の点で成果が得られました。

- 公開されている域内の生物多様性データが少ないとの認識に立って、**アジア地域行動計画**の骨子について合意がなされました。この計画では、**2件の学術共同研究事業、地域内のコンテンツやデータ活用促進策、生物多様性に関する情報収集および管理を強化すること**を目的としています。学術共同研究事業は、侵入種、レッドリスト、地域に特徴的な病原性動物、渡り鳥などの**国レベルの生物種チェックリスト**を比較するもの、およびアジアにおける**魚類の多様性が損なわれる危険性**を評価するためのデータベースの更新に関するものです。

生物多様性情報の共有とインテグレートッド・パブリッシング・ツールキット (IPT2) に関するワークショップがTaiBIFの主催により、地域ノード会議に前後して開催されました。このワークショップは、GBIFと台湾国家科学委員会の主催により、台湾中部の集集鎮にある特有生物研究保育中心を会場として6月25~27日に開催されました。このワークショップの講演については、<http://taibif.org.tw/en/ipt2012/en-agenda>から詳細をご覧になれます。

アフリカノードは、ルワンダのキガリで7月17~18日に第三回目の会合を開きました。



ルワンダ、キガリで開催されたアフリカノード会議。
写真提供：Fabian Haas氏。

この会議は、アルバーティーン地溝帯保全協会（ARCOS）の主催により、ルワンダ国立大学の地理情報システムセンターの協賛を得て開催されました。15のアフリカ諸国のノードおよび国際機関から参加があり、以下の点で成果が得られました。

- ・ **地域行動計画**の実施に向けた進展が見られた他、データ利用の活性化、対応能力の向上、域内協力関係の進展を目指した**アフリカ連携制度**の設立に向けた討議が行われました。
- ・ **アフリカ科学委員会**の設立により、域内における重要な研究課題や優先領域の他、生物多様性インフォーマティクスに関する研究テーマを決定する方法について、提案が行われました。
- ・ アフリカのノード間で**協力を促進**することの必要性が認められました。

北米ノード第3回会合は、首都ワシントンにあるスミソニアン自然史博物館にて7月23～24日に、スミソニアン協会、アメリカ地質調査所、統合分類学情報システム（ITIS）、生命のバーコード・コンソーシアム（CBOL）、エンサイクロペディア・オブ・ライフ（EOL）、NatureServeの共催により、開催されました。この会議には、23名の出席者の他に、7名がオンラインで加わり、計22団体から参加がありました。以下の点で成果が得られました。

- ・ GBIF2012-16年戦略計画に掲げられた目標に従って**地域計画**を策定することが合意されました。団体間の**協力**によりインフォーマティクス開発を行うこと、**コンテンツ利用の活性化**、**地域の関わり**を深めることが主目的として挙げられています。
- ・ ノードマネジャーや講演者により、**植物や侵入外来種**を基に地域のテーマを絞る可能性が示された他、地域における**ゲノムや分類学の専門家**の力を活用してGBIFネットワークを更に推進する計画などが示されました。

2012年GBIF資金援助メンタリング・プロジェクト

2012年GBIF資金援助メンタリング・プロジェクトの対象として、3プロジェクトが承認されました。このプロジェクトは、専門的知識や技術的支援を共有することによって、生物多様性情報機関の発展を推進するものです。

第一は、インドネシア・ノードである**インドネシア科学院**がGBIF日本の支援を受けて、生物多様性情報を管理するネットワークを構築するものです。インドネシアの研究者は、**日本ノード**による訓練を受けて、データの管理・公表に関する国レベルの計画を策定します。

GBIF コアファンドからの経済支援に加えて、GBIF日本には、東京にある国立科学博物館から3年にわたり600万円（63,000ユーロ）が供与され、南東アジア特にインドネシアを中心としたメンタリング・プロジェクトを実施します。

第二は、**アトラス・オブ・リビング・オーストラリア（ALA）**がコスタリカの国立生物多様性研究機関**INBio**に対してメンタリングを行うものです。

この協力事業によって、コスタリカのGBIFノードを通じてデータ活用活性化や公表を行うための国レベルの戦略と行動計画が作成されます。生物多様性インフォーマティクスに関するワークショップが国レベルで計画されており、INBioのソフト開発者グループが訓練を受けて、ALAが開発した技術をコスタリカの必要に応じてアレンジします。

第三は、**南アフリカ生物多様性情報機構（SABIF）**がICLEIに対してメンタリングを行うものです。この機関は、自治体の世界的なネットワークであって、ケープタウンに**生物多様性活動地域センター**があります。世界中のおよそ20の自治体から参加するスタッフがGBIFのツールや規格を使うための訓練を受けて、生物多様性データの公表やアクセスが自由にできるようになります。このプロジェクトの一環として、10月にはインドのハイデラバードで開かれる都市の生物多様性サミット開催期間中に、自治体のデータ公表担当者に対するワークショップが開かれます。詳細については[こちら](#)をご覧ください。

主要文書の翻訳

『GBIF覚書』の翻訳として、ブラジル科学技術開発省（MCTI）およびGBIFカナダの労により、新たにポルトガル語版とフランス語版が公表されました。既にGBIFメキシコが『覚書』をスペイン語に翻訳していますが、今回の翻訳は、これを補完するものとなります。『GBIF戦略計画（2012～2016）』については、GBIFカナダおよびTaiBIFによりフランス語および中国語（繁体字）に翻訳が行われています。以上の翻訳は、[こちら](#)から入手できます。

また、IPTマニュアルをスペイン語に翻訳する作業がコロンビアにおいて国ノードの管理を行っているSIBコロンビアにより完了しています。

スペイン語版マニュアルは、
http://www.gbif.org/orc/?doc_id=4708 から入手で
 きます。

GBIFネットワーク外の活動

南アフリカ市民参加型科学ポータルサイトの立ち上げ

南アフリカ国立生物多様性研究所 (SANBI) では、一般市民が生物多様性に関する情報の登録・交換を行うことができるポータルサイトを立ち上げました。この [iSpot southern Africa](#) というポータルサイトは、2008年に [市民参加型科学 iSpot ポータルサイト](#) を立ち上げたイギリスのオープン大学と共同で運営されています。

南アフリカのGBIFノード (SABIF) の運営を行っているSANBIは、6月にケープタウン近郊のキルステンボッシュで開催された第四回生物多様性情報管理フォーラムの際に、[iSpot southern Africa](#) を公式に発表しました。それに続いて、科学者や約150名の一般市民が近郊にある [ケニルワース競馬場自然保護区](#) に大挙して出かけ、できる限りの植物、動物、菌類の写真を撮影し、iSpotポータルサイトに掲載しました。

このフォーラムには、南アフリカから29機関の他、16の国際機関が参加し、SABIFの助成金によりコレクションのデジタル化を進めている博物館や研究所は、その成果を披露しました。SABIFは、データ品質に関する訓練セミナーも開催しています。

Canadensys 検索ソフト公開

[Canadensys](#) データレポジトリ用に新たな検索ツールが発表されました。このツールを用いることで、モントリオールを拠点とするネットワークを通して公表した生物種に関するデータの探索、フィルタリング、表示、ダウンロードができます。



このCanadensys検索ツールにより、現在15のデータベース・コレクションの検索が可能で、60万件を超える分布データが対象となり、そのうちほぼ80%はカナダに関するものです。これらのデータは、すべてCanadensys IPTにより、GBIFネットワークからもアクセス可能となっています。

アイルランドほ乳類地図の作成に一般市民の参画呼びかけ

アイルランド国立生物多様性データセンター (NBDC) では、一般市民に対して国内および周辺地域における野生ほ乳類の分布記録を作成するプロジェクトに参加を呼びかけています。この [アイルランドほ乳類地図](#) プロジェクトでは、現在ある記録プロジェクトからデータを集めて、種の解説や分布地図を作成します。第一の目的は、アイルランドに分布する一般的なほ乳類に関するデータ取得を推進することにより、2015年までに包括的な分布状況を把握し、今後の変化を監視する際のベースラインとすることです。

7月5日付けのアイリッシュ・タイムズ紙には、「[アイルランドではほ乳類観察大規模プロジェクト実施](#)」との記事が掲載されました。

ドイツで開催の市民向け科学イベントにGBIF登場

ベルリンで開催された『科学の夜長』と題する夜間市民講座において、生物多様性インフォーマティクスや [GBIFドイツ](#) に関する紹介が行われ、市民の関心を集めました。20分間の持ち時間の中で、GBIFが集積している科学データの紹介、GBIF関連プロジェクトに関する短い映像やGBIFポータルサイトを利用する際の方法の説明が行われました。会場は、[自然史博物館 \(MfN\)](#) および [ベルリン・ダーレム植物園・植物博物館](#) でした。

インフォーマティクス

種の記載の標準化タスク・グループ

生物多様性情報標準策定委員会 (TDWG) では、新しいタスク・グループを設立して、[Plinian Core](#) による命名法を推進し、種に関する情報の共有および統合を進めることとしています。

[Plinian Core](#) により、種の生殖、行動、ライフサイクル、摂食その他の情報を標準化して記載できます。[米大陸間生物多様性情報ネットワーク \(IABIN\)](#) により採択され、[エンサイクロペディア・オブ・ライフ \(EOL\)](#) に生物種に関する情報を取り込む際に用いられています。この記載基準は、関心のあるあらゆる人が自由に関わることができるタスク・グループの働きによって、今後生物多様性に関わるコミュニティの働きとして更に発展してゆくことが期待されています。タスク・グループは、10月22~26日に北京で開かれる2012年度TDWG年次総会の開催に合わせて結成される予定になっています。

[Plinian Core](#) を次の段階に進めるための課題は、メキシコのGBIFノードである [CONABIO](#) が主催する会議で討議されました。

GBIFにより公表したデータセット解析用の新規ツール

スペインのナバラ大学では、GBIF ネットワークに公表したデータセットのコンテンツを視覚化するオンラインツールを開発しました。



この BioDiversity DataSets Assessment Tool

(BIDDSAT) というツールを用いると、データセットを使用する際の適合性を評価し、修正の必要がある点を把握することができます。

このツールは、<http://www.unav.es/unzyec/mzna/biddsat/> からアクセス可能であり、主要なブラウザでサポートされています。このツールに関する解説が [Bioinformatics](#) 誌の6月号に掲載されています。

BioCAsE3.2 によりダーウィン・コア・アーカイブ形式はワン・クリックで

生物学的コレクションアクセスサービス

(Biological Collection Access Service, BioCAsE) の開発チームは、BioCAsEプロバイダー用ソフトの新バージョンを発表しました。この新規バージョン BioCAsE 3.2 を用いて公表した情報は、XML やダーウィン・コア・アーカイブ形式で簡単に保存ができます。BioCAsE がサポートする新規アーカイブ形式を用いると、データ収集やインデックス作業の効率が上昇し、エラーが少なくなります。データ・パブリッシングの際には、単純なダーウィン・コア標準形式と複雑な ABCD (Access to Biological Collections Databases) 形式との間で容易に切替ができます。BioCAsE および新規ソフトのバージョンの詳細については、<http://www.biocase.org/> をご覧ください。

公募プロジェクト

i4Life の新規パイロット・プロジェクトーカタログ・オブ・ライフのコンテンツ作成

締切 2012年8月31日0時 (真夜中、パリ時間)

i4Life プロジェクトでは、資金供与によりパイロット・プロジェクトを実施し、グローバル・スピーシーズ・データベース (GSD) の分類コンテンツを整備する事業を計画中です。内容は、グローバル・パートナー (GBIF、IUCN レッドリスト、BOLD、EMBL-ENA、エンサイクロペディア・オブ・ライフ) から新しい名称や分類群を確認して、データベースに取り込むことです。

このパイロット・プロジェクトの目的は、グローバル・パートナーからできる限り多くの学術的名称を収集して、分類チェックリストに掲載し、カタログ・オブ・ライフが定期的アップデートを行う際に提供することにあります。取り込むことができなかった名称は、その結果を示す注釈を付して i4Life に戻されません。

本件の i4Life 予算は、約 200,000 ユーロプラス諸経費であり、実施期間は 5 ヶ月を予定しています。資格要件は、欧州委員会の規則に準じます。

詳細については、i4Life のホームページをご覧ください (<http://i4life.eu/pilots.php>)。

今後のイベント予定

第三回ヨーロッパ保全生物学会議 (ECCB2012)

2012年8月28日～9月1日、イギリス、グラスゴー
詳細は、[こちら](#)。

IUCN世界会議 2012

2012年9月6～15日、韓国、済州島
詳細は、[こちら](#)。

第14回 BIOECON 年次総会

2012年9月18～20日、イギリス、ケンブリッジ
詳細は、[こちら](#)。

第19回 GBIF 理事会 (GB19)

2012年9月16～21日、ノルウェー、リレハンメル
詳細は、[こちら](#)。

生物多様性テクノロジーに関するシンポジウム

2012年9月27～28日、イギリス、オックスフォード
詳細は、[こちら](#)。

GBIFのVision : 科学、社会及び持続可能な未来のために、生物多様性情報が全域で自由に利用可能な世界の実現を目指します。

GBIFのMission : 生物多様性情報を提供する世界随一の情報発信源となると共に、環境と人類の福祉に役立つ賢明な解決策を提供することを目指します。

GBIF 本部
Universitetsparken 15
DK-2100 Copenhagen Ø
Denmark
<http://www.gbif.org/>

電話 : +45 35 32 14 70
Fax : +45 35 32 14 80
E-mail: info@gbif.org
過去の GBits ニュースレター・アーカイブ :
<http://www.gbif.org/communications/resources/newsletters/>